

- 1 学校長より
- 2 委員自己紹介
- 3 議案

(1) 令和6年度学校経営方針【小柳校長】 ※昨年度との変更点を中心に

- ・経営理念→自尊感情を育てる。
- ・年度初めに教職員に自尊感情とは何かを定義した。自尊感情は論文や研究者によって捉え方が違う。学校長の考える自尊感情について説明し、学校だよりに掲載した。

<自尊感情の花>自尊感情教育＝ヒーロー教育

自己受容感・・・ありのままの自分を認める →いじめ0、ハートフルウィーク。

自己効力感・・・自分にはできると思える →数値入り目標と振り返り、失敗を乗り越える経験  
(運動会の得点競技、学芸会の演劇等)

自己信頼感・・・自分を信じられる →きまりを守る、人・物・時間の尊重

自己決定感・・・自分で決定できる →学級会の充実、表現力の向上、行事スローガンを学年でも作る

自己有用感・・・自分は有用だと思える →下校指導の「今日のヒーロー」、当番や係活動の充実

自己肯定感・・・自分に満足している →分かる、できる、楽しい学び(校内研究と自由研究)、温かい所見

↓

規則的な生活習慣の基盤(生活リズムチェックカード)、プロとしての確かな指導スキル

- ・子供用のスローガン「自分が好き 学校が好き ここが好き」  
→大人になったときのイメージ  
「夢をもち、チャレンジし、より良くなろうと努力する」・・・循環をつくる
- ・第6学年のすがた  
「どんなときも全力 決して諦めない みんなに応援してもらえる」＝ヒーローの条件
- ・教員用スローガン【子供の「好き」を組織(みんな)で作る】
- ・前原小学校の実態(学力)
- ・前原小学校の学校生活への意欲→不登校の実態調査→出席10日以下や0日なくなり、改善傾向にある。
- ・重点目標
  - I 授業力向上「活発な対話を引き出す授業」 ※研究奨励校1年目  
授業観察前に提出する略案→何回もリメイクし練り上げる
  - II 特別支援教育力の向上  
ひだまり教室の学期I回の参観を義務付け

#### 令和6年度キャッチフレーズ

「縁」

- ・「えにし」開講60周年に立ち会える機会を大切にする。
- ・「へり」靴の踵をへりに揃える生活指導力

(2) 令和6年度学校評価 【副校長 ※A3資料参照】

① 小金井市重点目標

② 本校学校評価 中期経営目標 昨年度から引き続き

- ・あいさつ、靴を揃える、授業準備、時間に余裕を持った行動の継続
- ・前年度の成果と課題  
→挨拶はするが下火傾向になるので、子供同士の呼びかけを増やして活動や啓発活動をしていく  
→表現力向上を目指した授業変革
- ・周年記念集会では校歌の作曲者をお招きし、お話を伺う。皆様にも周知へ。

- ・6年生が前原小学校一期生にお話を伺う活動があった。(総合的な学習の時間)  
→自分たちが土台を築いていく責任感と学校への愛着など感想、変容が見られた
- ・特色ある学校づくり  
→生命尊重・ハートフルウィークの授業を今年度も継続。  
保護者をGTとして授業化するなど打診中。沢山の方に関わっていただきたい。  
市でも不登校対策に力を入れている。  
→大熊教育長の講演より「学校から家に帰っていくのを、格納庫に変えるジェット機に喩える。  
(飛行機が)格納庫から飛び立つためには、周囲の家や建物を壊しながら飛び立つことになる。  
傷ついたり引っかかったりして上手く飛び立っていけない児童をどうサポートしていくか。」  
→子供たちが学校にきやすくなる取組が必要である。

### ③ 本校の研究活動について【細川 ※スライド資料参照】

- I 自尊感情に課題意識があると推察→数値化できる実態調査へ
- II 児童の振り返りの習慣化→各学年で発達段階に応じた振り返り活動の強化
- III 対話を中心に主体性と深い学びにつなげる  
→活発な対話生まれるための「問い」の工夫と関わらせ方
- IV 教員の指導力向上へ  
年2回の示範授業(input)と年6回の研究授業(output)を実施  
研究が終わってもアウトプットが続くように研究を継続していく

#### →校長補足

- ・中期的・短期的目標は数値を交えて教員にも配布・配布をしている(自走)
- ・子どもの権利の保証  
短期経営目標「人・物・時間を大切にする」との関連  
弱い立場の子供たちの権利を保障することが自尊感情教育につながる。

<学校評価との関連>

◎主体的・対話的で深い学びへ→対話的  
活動が活発になる授業  
実践へ

[項目1]

◎基礎基本のとなる  
内容の定着

### ④地域・学校共同活動(放課後)の継続について【CS 森田】

**放課後子ども教室** 4月から活動を継続中。 最大で296人の児童が参加。

#### <報告したい点>

- ・学校経営方針が実を結んでいる。児童同士の喧嘩が減ってきた。意見の違いやルールの解釈の違いで起きる揉め事に委員(大人)の介入が減り、児童同士で落ち着いた「話し合い」で喧嘩にならないように遊ぶ姿が年々できつつある。話し合う力が身に付いてきている。
- ・午前中休んでいた児童が放課後子ども教室に参加した場合には、気持ちの問題で午後から出席した児童に関しても「来て大丈夫」「よかった、来れたね」と認め合い励まし合う姿があった。明日のことについて話し合う前向きで思いやりのある姿も見られた。
- ・低学年で弁の立つ子がまくしたて、何も言えない子が泣くような喧嘩も、年齢が進むことで減ってきている。子供たちの成長過程が見える。

### ⑤地域未来塾 まなび〜 【CS 伊藤】今年度からコーディネーターが伊藤さんへ

- ・平均20~30人の児童が参加。支援員も入り落ち着いて行動し、ここは宿題をするところという意識ができています。保護者も「まなび〜で宿題をしなさい」と声を掛けてくださるようで、みんな意識的に取り組んでいる。雨の日に定員オーバーになりそうなきもあったが、みんな熱心に取り組んだ。現在86名登録しているが、昨年度は137名だったので今後の増加を期待。  
互いに靴を揃えることについて声をかけている子供の姿をよく見かけた。